## 自分にとって望ましい仕事を選ぶための
# 本当に大切な７つの視点



## ①仕事は、「どんな役に立ちたいか？」という視点で選ぶ

仕事とは、全て何かの役に立つことをしています。だったら、自分はどんな役に立ちたいかを考えることで方向性を合わすことができます。
実は、これが仕事選びの原点なのです。
もしくは、「自分だったらどんな役に立てるか？」という視点でもOKです。
実際は、仕事を選ぶ際、「好きなことは？」から考える人が多いと思います。もちろん、好きなことから考える道もありますし、そこから考えてうまくやれている人も多くいます。
しかし、仕事でつまずいた人の相談を受けると、ほとんどが「どんな役に立ちたいか」を持ってないという事実もあるのです。
考えるのが難しいという人は、些細なことでもいいので、何かの力になれてよかったなと思えることはないか、まず気づくところから始めてみてください。



## ②やりたい仕事は１つに絞らず、やりたい方向性を定める



仕事は学校と違って、試験で満点を取れば内定できるというものではありません。総合的な能力が上の人より下の人が選ばれることもあります。だから、選択肢を拡げておくことが非常に大切です。
「消防士になる」という目標は当然選択肢は狭く、「地域の人の安全を守りたい」という目的なら当然選択肢は拡がります。この中で、第一希望は消防士としておけばいいだけです。これが方向性を定めるということです。
そして、仕事というのは、第一希望をすることが自分にとって一番いいかどうかはわかりません。もしかすると第5希望が自分にとっては一番幸せかもしれません。第一希望にこだわって、働かずに何回も何年も挑戦するより、第5希望の仕事ができるなら、そうした方が幸せかもしれないわけです。
やりたい方向にある仕事なら、希望順位はあっても、全て面白く仕事に取り組めるものなのです。

## ③好きな”コト”を仕事にするんじゃなく、好きな”要素”を仕事にする

好きなことを仕事にした方がいいのか？好きなことは仕事にしない方がいいのか？意見が分かれるところでしょうが、一つ言えることは、好きな”コト”ではなく、”要素”を見ることです。
車をいじるのが好きだから車を整備する仕事を選んだとします。しかし、自分は車をじっくり丁寧に整備して状態を良くすることが好きなのに、細かい整備をとにかく短時間で日に何度もやらなくてはいけないという業務形態の工場に入ったとしたら、おそらく嫌になるでしょう。この人なら、じっくりと整備できる工場に入らないと面白く仕事はできないわけです。
好きなコトを仕事にした方がいいよと言う人は、実は好きな要素を仕事にできていて、やめた方がいいよという人は好きな要素を仕事にできなかった人が多いはずです。
大切なことは、好きな”コト”を見るのではなく、好きな”要素”を見ることです。



## ④得意なことを仕事にするんじゃなく、得意の仕事への活かし方を考える



得意なことから仕事を探すという方法を聞いたことがある人もいるでしょう。
しかし、「得意なこと」というのは、どんな仕事にも活かせます。もちろん、極端に違う仕事では活かしづらいこともありますが、仕事を選ぶときは得意なことではなく、どんな役に立ちたいかから考えるのがベターです。
ただし、得意なことから、自分はどんな役に立てるかなと考えるのは非常にいいことです。
そして、得意なことは、やりたい仕事にどう活かせるかを考えましょう。
例えば、人と話すのが苦手な人でも営業という仕事はできます。人と話すのが苦手でも、物の特性を把握するのが得意であれば、それを活かしてお客さまに最適な提案をするというスタイルの営業ができるわけです。好きだけど自分には能力がないと安易に諦めるのはもったいないです。持ち味はどんな仕事にも活かせます。
活かし方を考えることが大切です。

## ⑤”働きがい”と”働きやすさ”２つの視点で仕事は考える

仕事内容の充実が”働きがい”であり、生活のしやすさ（休みが充分に取れるか、給料がいくらあるかなど）が”働きやすさ”です。
この２つのバランスを取るのではなく、今、何を優先させたいかを考え、どちらかに傾いたとしても生活全体としての幸せを考えることが大切です。
とはいえ、新卒時ではそこまで考えていては仕事を選べないかもしれません。こういう視点があるということをまずは覚えておいてください。
そして、人生のステージごとにも価値観は変わります。例えば、独身時代は働きがいを重視したかったとしても、結婚してチャンスがきたら、どうしても働きやすさが必要になってくる場合もあります。大切なのは、妥協ではなく、今の状態での最善の選択をしているという意識です。
仕事は人生を面白くするーつではありますが、人生の全てではありません。生活全体としての幸せを考えてください。



## ⑥”寄り道する”という仕事の選択肢を持っておく



昔は、一つの会社に入って勤め上げれば給料や役職もどんどん上がっていきましたし、それがごしごされてきました。しかし、現在はそんな状況ではありません。現在には現在に合った仕事の歩き方があります。もちろん一つの会社に入って勤め上げるのも一つの道ですが、”寄り道をする”という仕事の歩き方も面白いものです。
これからの社会は多様性が重要です。様々な価値観に対応する視点が求められます。寄り道は、多様性を養うことができます。違う業界を経験する、違う職種を経験する、ちょっと留学をしてみる、子育てで一旦仕事を中断する・形態を変える・・・全て寄り道です。そして、全て多様性が養われます。学校を卒業して最初に入った会社で自分の一生が決まるわけではありません。道はいろいろあるし、軌道変更もできます（もちろんエネルギーはいりますが）。不本意に道を外れざるを得ない場合でも、寄り道すると捉えれば面白い道にできるのです。

## ⑦これからは、”新しく仕事を創る”という選択肢も普通になる



昔はかっただけど今はある仕事というのも随分と増えてきました。そして、現在では増え方のスピードが半端ではありません。ある大学教授は、2011年に小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に2011年には存在してなかった仕事に就くだろうなんて予測も出しています。数字の真偽はともかく、似たような状況にはなるはずです。
つまり、今ある仕事だけで将来を考えても、実際に働く時期にはもう自分にとって望ましい仕事があるかもしれないのです。だからこそ、職業名で仕事を選ぶのではなく、「どんな役に立ちたいか」という方向性で考えることが大切ですし、なければ自分で仕事を創れればいいのです。こう言うと、そんなことは特別な人しかできないと思うかもしれませんが、自分で仕事を創るなんてのはごく普通のことだという時代になってくるはずです。もちろん、今ある仕事も素晴らしい仕事です。いろいろな可能性の中から自分にとって望ましい仕事を選んでください。



©casK career